

3・4 学年図画工作科学習指導案

日時 2004年 月 日第 校時

場所 図工室

指導者 沖畑 康子

1 題材名 「切って切って つないでつないで」

2 題材について

ものをかいたり、つくったりするという活動は、しばしば作品を完成させることを目的として行われる。しかし、表現することの喜びは、結果としての作品にのみあるものではなく、その活動の経過の中にも多くある。それは、素材などに関わる行為を通して得られる感覚的な喜びや、表現の試行錯誤を繰り返す、工夫する喜びである。この活動の中での喜びを十分に味わうことが、主体的にもものと関わり、楽しく表現しようとする姿勢や能力を育むことにつながる。

本題材は、木を素材とし、つなげる、組み合わせるなどの造形的な行為を繰り返す中で、木という素材の形や質感から刺激を受けて思いをふくらませ、自分のつくりたい形を見つけつくり出すことを大切にしたい活動である。

そこで、主材料の3×3cmという、子どもには適度の抵抗感がある木材を多くの小片に切り分けていく活動が重要になる。従って、中学年として身につけさせたい技能の一つである、木を加工するための用具としてののこぎりなどの安全で適切な扱い方の学習を含んでいるが、技術の習得だけにとどまらず、加工するときの感覚的な喜びを十分に体験させることを大切にしたい。

また、木片を組み合わせることで形をつくりあげていく活動では、操作の中で生まれる形を楽しむことに重点を置き、形のおもしろさや組み合わせのよさに気づくように、一つの形にとらわれず様々に試みるように働きかけたい。子どもたちは、具体物のイメージが多いと考えられるが、4年生に対しては、さらに、変化のある形自体のおもしろさに着目するような働きかけも行いたい。

接着した基本形態には、様々な装飾を加えて、自分なりの作品に仕上げていく活動を行う。子どもたちの意欲が増し、様々な工夫が生まれる場面でもある。発展材として、ベニヤ板、檜棒、竹ひごなどの材料を準備しておく。しかし、この材料をいつ子どもたちに示すかは、迷うところである。早くからこれらの材料の存在を知っていることで、思考の幅が広がることもあるし、かえって基本材の形の組み合わせから生まれるおもしろさに意識がいかななくなることもある。子どもたちの様子を見極めなければならない。

3 児童の実態

4 題材の目標

- ・身体感覚を十分働かせ、木材を切る活動を楽しむ。
- ・素材のよさや組み合わせた形のおもしろさを楽しみながら感じとり、発想を広げ、材料を選択してつくる。
- ・のこぎりの安全で適切な扱い方や、接着剤の効果的な使い方を身につける。

